

2021年度 活動報告

I. 運営に関する事項

I. 総会の開催

第20回定時総会

2021年5月30日（日）13:00～ 対面及びオンライン会議システムを利用しての実施

2020年度活動報告の承認を求める件

2020年度決算報告の承認を求める件

役員の報酬等に関する規定の承認を求める件

2021年度活動計画（案）の承認を求める件

2021年度活動予算案（案）の承認を求める件

2021年度役員（案）の承認を求める件

2. 理事会の開催

2021年4月24日（土）10:00～12:00

2020年度活動報告、収支状況についての報告

2021年度活動案、2021年度予算案、2021年役員案などについて協議

2022年1月9日（日）9:30～11:30

むすびつくば事業について つくば市プロポーザル結果・経緯報告

2022年2月2日（水）9:30～11:30

むすびつくば事業について 前回協議以降の情報共有

Ⅱ. 事業に関する事項

Ⅰ、むすびつくばの運営事業

2021 年度目標

- 互いに異なる個性を尊重し、認め合う雰囲気づくりに努めるとともに、子どもたちが自身を肯定的に受け入れ、前を向いて歩いていこうとする意欲を育む。

【成果】

- ・ むすびつくばの室内を「フリースペース」と「学びのスペース」とに分けて、各自がそれぞれのペースでゆっくりと過ごせるようにするとともに、多様な学びを支えるべく教材研究や支援方法の工夫に努めた。その結果、多くの保護者から「元気になっていっているし、知識欲も出てきていて、感謝している」などの声が寄せられた。
- ・ 教科学習は個別支援を原則としたが、理科や社会ではグループで意見を交換しながら学ぶ姿も見られた。
- ・ 中学3年生5名の内4名が全日制高校に進学、1名が通信制高校に進学した。

- 地域に暮らす人々の協力のもと体験的な学びの機会、生きることの楽しさを知る機会を充実させ、個の伸長に寄与する。

【成果】

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により活動が制限される中、カヌー体験、ジャンベの演奏体験講座を催した、3月には、筑波山登山を実施した。

- 保護者、地域で活動する個人や団体との連携の強化に努めるとともに、行政との協働のより良いあり方を模索する。

【成果】

- ・ 8月1日には、不登校への理解を深めることを目的としたオンラインイベント「不登校 その育ちと学びを支えるために」を実施した。卒所生や五十嵐市長、森田教育長も含め定員を上回る71名の参加があった。

事業の実施概況

- ・ 不登校児童生徒を対象とした支援教室「むすびつくば」を、長期休業期間および新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休業期間を除き月・火・木・金曜日の週4日、延べ156日開級した。
- ・ 緊急事態宣言を受け、9月は対面ではなく、ZOOMを使つてのオンライン活動を行った。子どもたちが受け身にならないような参加型の活動を工夫して行った。
- ・ 2021年4月1日より2022年3月31日までに50件を超える問い合わせ(うち見学は34件)が寄せられた。また、体験通所*を希望し、待機している児童生徒が2022年3月の時点で17名(小学生5名・中学生12名)いる。
- ・ このような状況からより多くの希望に応えられるよう、2021年5月には定員を15名・週4日か

ら、週2日の「月木コース・火金コース」に分け、15名×2コースの計30名に改めた。定員に対して、2022年3月の時点で入所者数は34名、体験通所中の児童生徒は3名となった。

- ・ 延べ登所者数は1,484名、本人や保護者と相談の上で半日から少しずつ慣れていけるようにしていることなどから、1日あたりの登所者数は9.5名/日となった。
- ・ スタッフの勤務時間（パートタイムを除く）は9:00～16:30、毎朝夕に清掃や消毒作業、ミーティングをもち、情報共有と振り返り、学習の記録を入力する作業などを行った。
- ・ 水曜日には、臨床発達心理師による教育相談、保護者同士が思いを語り合うなどする場としての「親の会」、スタッフの研修会をもつなどした。

(1) 学習支援活動について

- ・ 「学びのスペース」では、午前中に40分×3コマの授業時間を設けた。学習の遅れが不安のもととなっていることも多いが、得意や不得意も考慮しながら、その子なりのペースで学びを進められるようにすることで自信の回復に努めた。
- ・ 入所当初はスタッフ1名に対して児童生徒1名を基本とし、その後もケースに応じて1対1から1対3名ほどで学びを支えた。
- ・ 読み書き、特に書くことの困難などLD（Learning Disorders / Learning Differences）傾向が見られる児童生徒も複数在籍したことから、国語科では対話を通じて、表現力を伸ばすなど得意の伸長に努めた。
- ・ 午後は隔週で絵画造形、スポーツの時間を設けた。絵画造形では見栄えにこだわらず作ることの楽しさを大切に、スポーツの時間にはNPO法人Next one. よりコーチを招き、体力と協調性の伸長に努めた。
- ・ サークルタイムでは、「環境教育」にも取り組んだ。教室でのごみの分別から始まり、小学生から中学生までがそれぞれに意見を出し合い、地域の問題について考えを深めることができた。クリスマス会等企画のイベントを通じて、子どもたち同士が活発に話し合い、中学生を中心として主体的に活動する様子も見られた。

(2) フリースペースでの活動について

- ・ 「フリースペース」ではセンターテーブルで好きなことに取り組む子もいる一方で、集団の中に入ることが難しく多くの時間を隠れ家スペースで過ごす子もいたが、スタッフはつかず離れず一人ひとりに寄り添い、安心して過ごせる場となるよう努めた。
- ・ 信頼関係の醸成に努めながら、フリースペースにはボードゲームを置くなどして、子ども同士の自然なコミュニケーションが生まれるように努めた。また簡易トランポリンやバランスボードを置くことでストレスを発散できるようにした。
- ・ 遊びの中からさまざまな興味や関心を引き出す場として、自由参加の「〇〇の部屋」も設けた。1つのテーマに対しても、子どもたちの発言から多様な学びへとつないだことで、教科学習には興

味を示さない子も積極的に取り組む姿が見られた。

(3) 体験活動について

- ・ NPO 法人 Next One. と 霞ヶ浦のラクスマリーナの協力を得て、カヌー体験講座を実施した。スポーツに積極的ではない子も参加し、大きな声を上げながら楽しそうに水に飛び込む姿が見られた。
- ・ セネガル出身のジャンベ演奏家ファイ シーディさんを招いて、コースごとに計2回、ジャンベの演奏体験講座を開いた。大きな音を苦手とする子（HSC）もいたため、セネガルの布地を生かしたボタンづくり講座を並行開催した。
- ・ 3月には、筑波山登山を実施。計15名が参加し、月木コースと火金コースとの枠を超えた交流も見られた。

(4) 所属学校等との連携

- ・ 所属学校には、毎月、出席日数や生活の様子や学習状況等を文書で報告した。学校にも登校している場合は特に、電話での情報共有などにも努めた。
- ・ 4名のスタッフがつくば市教育相談センターに出向き、つくしの広場とおすびつくばの両方を利用する児童生徒について情報を共有するなどした。

(5) 保護者との連携

- ・ 保護者にも所属学校と同様に、毎月、出席日数や生活の様子、学習状況等を文書で報告した。
- ・ 例年実施していた親子バーベキュー、年末と年度末に実施していた保護者を交えてのお楽しみ会は、コロナ禍もあり実施できなかった。
- ・ 臨時も含め計5回の保護者会をもった。計画面談は冬季休業期間と年度末の2回行ったほか、希望に応じて随時個別面談を行った。
- ・ その他、つくば子どもと教育相談センターの協力を得て「親の会事業」に取り組んだ。

(6) 地域の団体との連携

- ・ 筑波大学と協働し、「教育インターンシップ実践演習」として6名の学生を2日間ずつ受け入れた他、NPO 法人ドットジェイピーによるインターンシッププログラムでも、筑波大学から3名の学生を2か月間受け入れた。
- ・ 教育相談では 臨床発達心理師 や 公認心理師、親の会では任意団体つくば子どもと教育相談センターの協力を得、スポーツの時間には NPO 法人 Next one. からコーチの派遣を受けた。
- ・ その他、地域で活動する個人や団体と協働し、スポーツ教室やカヌー体験、ジャンベ演奏体験講座などを実施した。週末などにも、ハンドメイド、イラスト、演劇を実施した。

(7) スタッフ研修の充実

- ・ 毎朝夕のスタッフミーティングで日々の支援を振り返るとともに、第3水曜日には講師を招いて自主研修を行うなどした。これとは別に、様々な講座に参加するなどして支援の質の向上に努めた。

○ 外部講座への参加

- ① 日本臨床発達心理師会茨城支部主催
「GIGA スクール時代の特別支援教育における ICT の活用」
- ② こどものミカタ養成講座実行委員会主催 「“こどものミカタ” 養成講座第4シーズン」

- ③ イエナプランを学ぶ オンライン講座 「実践者のための応用編」
- ④ アットスクール主催「サポーター養成研修 算数のつまずきの理解と指導法」

○ 講師を招聘しての内部研修

- ① 子どもの救急対応と感染対策について 講師：NPO 法人ままとーん代表 間野聡子氏
- ② むすびつくばで大切にしたいこと ～スタッフ同士で声を聴きあう～
講師：NPO 法人セカンドリーグ茨城理事長 横須賀聡子氏
- ③ 支援に生かせる振り返りの手法を学ぶ 講師：NPO 法人 Learning For All
- ④ カウンセリングについて学ぶ 講師：つくば子どもと教育相談センター代表 穂積妙子氏
- ⑤ 子どもを支えるチーム作り ～連携のためのファシリテーション講座～
講師：ユニベルシタスつくば（「つくば市民大学」運営団体）代表幹事 徳田太郎 氏

(8) その他

- ・ むすびつくば の Web ページを作成、公開した。活動の趣旨を説明するとともに、施設紹介動画を作成し、対象児童生徒が最初の一步を踏み出しやすいように心がけた。
- ・ 第三者の目から、客観的な活動評価をいただくための運営協議会も計4回実施した。

《スタッフ一覧（2022年3月時点）》 ＊印は教員免許所持者

氏 名	経歴等	担当クラス
本山 裕子	元公立中学校教諭	数学 ＊
浅野 美歩	つくば市特別支援教育支援員	国語 ＊
北村 直子	元公立中学校講師	国語 ＊
松井 由佳	筑波大学第二学群人間学類教育学主専攻卒業	社会 ＊
佐々木 侑紀	二松学舎大学 国際政治経済学部卒業	社会 ＊
小野村 哲	元公立中学校教諭	英語 ＊
梅澤 亜希子	元公立中学校講師	英語 ＊
八畑 博子	つくば市理科支援員	理科 ＊
平石 哲	デザイナー	絵画造形
大嶋 愛子	元公立保育園保育士	サークルタイム ＊
早見 恵一	元会社員	フリースペース
原嶋 彩子	特別支援学校 非常勤	フリースペース ＊

《外部講師》

氏 名	所 属	担当クラス
河田 萌	NPO 法人 Next.one	スポーツ教室

2. 学習支援事業

2021 年度目標

- 英語を中心に、オンライン教材の開発、配信を充実させる。

【成果】

- ・ 下記 3 つの動画を開発、配信した。
 - ① アルファベットれんしゅう Part1 大文字とそっくりな小文字
 - ② アルファベットれんしゅう Part2 どこか似ている文字
 - ③ アルファベットれんしゅう Part3 ちょっとちがう文字

- NPO 法人 Learning for All と協働し、家庭の都合などで昼間のむすびつくばには通うことが難しい不登校児童生徒を対象とした居場所支援事業に取り組む（助成金事業）

【成果】

- ・ オンラインも含め全 35 回の開催、延べ 134 名の参加があった。
- ・ 通信制高校に通う高校生の家庭からは、外部の人と関わりを持つ唯一の場所だとの声が挙がっている他、朝起きるのが難しく、午前中の活動には参加しにくい子の家庭からは、夕方の時間帯なら参加しやすいとの声が聞かれた。

- 一般社団法人つくば国際交流協会と協働し、外国籍の児童生徒への学習支援事業に取り組む。（助成金事業）

【成果】

- ・ オンラインも含め 全 60 回の開催、延べ 605 名の参加があった。
- ・ 緊急事態宣言を受けて 7 回中止したが、その間に講師はオンライン指導の練習を行うとともに教材開発を行い、以後オンライン(Zoom)を活用して再開した。

3. 親の会事業

- 会の進行は つくば子どもと教育相談センター のみなさんをお願いし、毎月第 3 水曜日、年間 11 回の保護者会を実施する。

【成果】

- ・ ピア・カウンセリングを兼ねたむすびつくば親の会を計 9 回開催した。保護者の率直な声を伝えていただけるよう、「親の会」には むすびつくばスタッフ は立ち会わず、運営は つくば子どもと教育相談センター に依頼した。

- 平日の参加が難しい方のために、土日・夜間のオンライン形式での開催を試みる。

＊上記事業は、助成金事業として実施する。

【成果】

- ・ 助成金事業としての親の会は、土曜日の開催としたところ、対象保護者の参加機会を増やすことができた。

- ・ 毎月 500 円のむすびつくば親の会費を生かし、保護者主催で性教育に関する勉強会をもった。
- ・ スタッフとの交流の機会をより多くという声が寄せられた一方で、親の会への参加者は少なかった。
- ・ 上記を補うものとして、オンライン上に保護者用の掲示板を立ち上げたが、利用は一部の保護者に限られた。

4. 研修会事業

2021 年度目標

- 子育て支援に取り組む人、これから取り組もうとする人を対象に、「ライズ学園」での実践から得た学び、「むすびつくば」で抱えている課題などを共有するオンライン講座を開催する。

【成果】

- ・ 日本財団助成金事業の一環で、下記2つのイベントを開催した。

① 5/21 オンラインイベント

「不登校：もうひとつの学びと育ちの場 ～ライズ学園+むすびつくばの21年～」

② 8/1 オンラインイベント「不登校 その育ちと学びを支えるために」

- 他団体とも協働しながら、フリースクールその他そのスタッフ養成を目的とした講座をプログラムし、その一部を開催する。

【成果】

- ・ “こどものミカタ” 養成講座の開催に協力した。

- 2019年度に作成した冊子「あいうえお・ABC なぜ、どこがむずかしい？ どうしたら 読み書きできる？」を生かした講座を開催する。

【成果】

- ・ 講座を主催することはできなかったが、家庭教育学級等の講座で資料の配付広報に努めた。

5. マナビィ・ネット事業

2021 年度目標

- 科学や芸術、スポーツなど一人ひとりの興味、関心にそった学びと体験の場、すべての子どもたちがその子なりの育ちを尊重される「サード・プレイス（第3の場）」としての「地域文化・スポーツクラブ事業」に注力する。

【成果】

- ・ 日本財団の助成金を得て、「むすび場：地域文化スポーツクラブ運営事業」に取り組んだ。
延べ105講座を開催し、延べ404名の参加があった。

6. 教材開発・教材販売事業

2021 年度目標

- 「ひらがなれんしゅうちょう」を改定、新たに出版する。

【成果】

- ・ 2022年度事業として取り組むこととした。

- 英単語カレンダーの改定と、関連コンテンツの充実に努める。

【成果】

- ・ 2022年度英単語カレンダーおよび単語タイピングコンテンツを作成し、生活クラブ東京、生活クラブ千葉、生活クラブ茨城、パルシステム茨城 栃木では、寄附付き商品として取り扱いいただいた。

【事業の実施概況】

○ 教材販売事業

- ・ 「リズムとパターンで覚える不規則動詞練習プリント」を、他団体を通じて水戸市教育委員会に提供等、広報に努めた。
- ・ 「リズムとパターンで覚える不規則動詞練習プリント」に準拠した動画の無料配信・広報を行った。
- ・ 「RISE 英語罫線ノート」について、中学校から注文が相次ぎ、再印刷を行った。

7. その他の活動

2021 年度目標

- 定期的に活動成果を発信するなどして、新規会員の獲得に努めるとともに、情報発信の充実により、会員の継続率向上に努める。

【成果】

- ・ 新規会員の獲得については十分な成果を出すことができなかったが、年度末には新たに役割分担と年間計画を見直した。
- ・ 毎月実施されているイオン黄色いレシートキャンペーンは、コロナウイルスの影響で店頭活動が中止となったが、当法人のボックスに投函されたレシートの総額の1%、27,100円を寄附いただくことができた。

- クラウドファンディングを活用し、IT環境の整備など、むすびつくばの学習環境の充実を図る。

【成果】

- ・ 昨年度のクラウドファンディング余剰金を活かし、むすびつくばの環境整備に活用した。

【講演活動等】

- ・ 筑波大学 教育学類教育インターンシップ 基礎論（オンライン）
- ・ ひたちなか市 PTA 教育講演会 <https://youtu.be/pjIYkP0dtG4>
- ・ つくばみらい市 家庭教育学級講演会（動画配信）
- ・ 水戸生涯学習センター 課題解決チャレンジ事業研修会「社会課題としての不登校～困難を抱える子どもたちへの支援～」
- ・ じゃあまいいかねっと「苦手を防ぐ英語の指導法 研修会」（教員対象）、「苦手をふせぐ英語の勉強会」（小中学生対象）